



いもる

第4号

そこにある

命

のもとへ



- ▶ 薬局からこんにちは
整腸剤って何？
- ▶ 参加報告
全国自治体病院学会
in 函館
- ▶ 結果報告
道北6市
市立病院野球大会
- ▶ FOCUS—病院で働くひとたち
オペ室、中央材料室編

留萌市立病院災害派遣チーム

DMAT

Japan Disaster Medical Assistance Team

助けを待っている人がいる――

災害現場で活躍する医療チーム、

医療機器や薬品も限られている中で必死に救命活動を行う



◆災害時に緊急出動

DMATとは、災害派遣医療チーム Disaster

Medical Assistance Team の頭文字をとった

言葉で、『災害の急性期(概ね48時間以内)に

活動できる機動性をもった、専門的な研修・訓

練を受けた災害派遣医療チームである』と、日

本DMAT活動要領より定義されています。要す

るに、災害時に緊急出動できる医療チームです。

メンバーは、医師、看護師、医師・看護師以外

の医療職及び事務職員(救急救命士・薬剤師・

臨床工学技士・リハビリスタッフ…etc)で構成

されています。

DMAT指定医療機関は全国に751機関あり、

当院もDMAT指定医療機関となっています。

DMAT登録者は発足の2005年には3000

人程度、2011年は約6000人、2014

年には約9000人と、登録者は年々増加して

います。

留萌市立病院災害派遣チーム

DMAT

Japan Disaster Medical Assistance Team

Japan Disaster Medical Assistance Team

◆大災害からの教訓

1995年1月17日、兵庫県南部地震による地震災害、阪神・淡路大震災が起りました。兵庫県を中心に、大阪府、京都府が甚大な被害をうけました。死者6434名、行方不明者3名、負傷者43782名と、多くの人々の生命・健康を脅かしました。戦後の地震災害では、東日本大震災に次ぐ規模です。当時は災害医療の概念はあったものの、その形態は十分なものではありませんでした。後に、初期医療体制の遅れが



訓練の様子 (2014年)

考えられ、「避けられた災害死」が500名存在した可能性があったことが報告されました。この教訓から「一人でも多くの命を助けよう」という意志のもと、厚生労働省より災害医療派遣チーム、いわゆる日本DMATが平成17年4月に発足されました。2004年の新潟県中越地震にはじまり、東日本大

震災や2014年の御獄山噴火などの災害、また2008年の秋葉原通り魔事件という殺人事件や、2012年の中央自動車道笹子市トンネル内崩落事故、関越自動車道高速バス居眠り運転事故などにも出動しています。

DMATの活動内容は大きく分けて5つあります。

① 広域医療搬送

被災地域で対応困難な重症患者を被災地域外に搬送し、緊急に治療を行うために国が政府の各機関の協力下で行う活動。

※広域医療搬送拠点での臨時医療施設(ステージングケアユニット:SCU)

広域医療搬送拠点におかれ、患者の症状の安定化を図り、搬送のためのトリアージを実施するための臨時の医療施設として、必要に応じて被災地域及び被災地域外の広域医療搬送拠点に設置されるもの。

② 病院支援

被災地域内の病院に対する医療の支援で、多くの傷病者が来院している病院からの情報発信、該当病院でのトリアージや診療の支援、広域医療搬送のためのトリアージを含む。

③ 域内搬送

ヘリコプター、救急車等による搬送で、都道府県や市町村が行う者で、災害現場から被災地域内の医療機関への搬送、被災地域から近隣地域への搬送、被災地域内の医療機関からSCUへの搬送及び被災地域外のSCUから医療機関への搬送を含む。

④ 現場活動

災害現場でDMATが行うトリアージ、緊急治療、がれきの下の医療等の医療活動。

⑤ 後方支援

DMATの活動に関わる通信、移動手段、衣料品支給、生活手段等を確保すること。DMAT活動に必要な連絡、調整、情報収集の業務も含む。

当院DMAT医師、西川尚医師はDMATの救命活動について話を聞いた。

「DMATが出動するような災害現場では、即座にトリアージを行い治療の優先順位を決定しなければなりません。現段階では生きているだけでも、治療に相当の時間を要し、付きつきりになってしまう場合、より多くの命を助けるためには泣く泣



く見捨てなければならぬ可能性もあります。そのような非常にシビアな状況下での救命活動ではDMATメンバーの精神状態も過酷なものになると思います。

そのような大災害が起こらず、私たちが出勤しないことが一番良いのですけど…」と西川医師は語る。

現在まで当院のDMATが出動したことは無いが、今後も緊急の要請に対し、万全の状態でお出動できるよう取り組む次第である。



さいかわ たかし
西川 尚

総合内科医師 内科部長
当院DMAT医師



オペ室 中央材料室

FOCUS #4

オペ室 中央材料室編

「手術が必要です」と診断されたら、皆さんどんな気持ちになりますか？おそらく、未知なる環境と体験に対し、大きな不安を

それは術前・術後訪問です。
日行っている大切な業務があります。
仕事です。そして手術場面以外でも患者様のケアを行う「間接介助」が主な業務です。そして手術場面以外でも毎日行っている大切な業務があります。
手術中は、手術器材をタイミングよく執刀医に渡す「直接介助」や、手術が安全に進行するよう麻酔の介助や患者様のケアを行う「間接介助」が主な業務です。そして手術場面以外でも毎日行っている大切な業務があります。

業務内容は？

職員などでも滅多に立ち入らない人が多い手術室、その閉鎖的な空間ではどのようなスタッフが働いているのか、今回のFOCUSはオペ室・中央材料室をピックアップした。
そこで手術室のあれこれ、裏話を手術室科長三木智恵美科長にお話を聞きました。



抱かれる方が多いと思います。術前訪問は、担当看護師が手術を受ける患者様の病室に訪問して手術の流れを説明し、質問にお答えすることで、患者様の不安な気持ちが少しでも和らぎ安心して手術が受けられることを目的として行っています。また術後訪問では、痛みや辛いことがなかったか、順調に回復しているかなど手術後の様子をお聞きし、訪問する手術室スタッフの大切な役割です。

ドラマのように緊迫していますか？

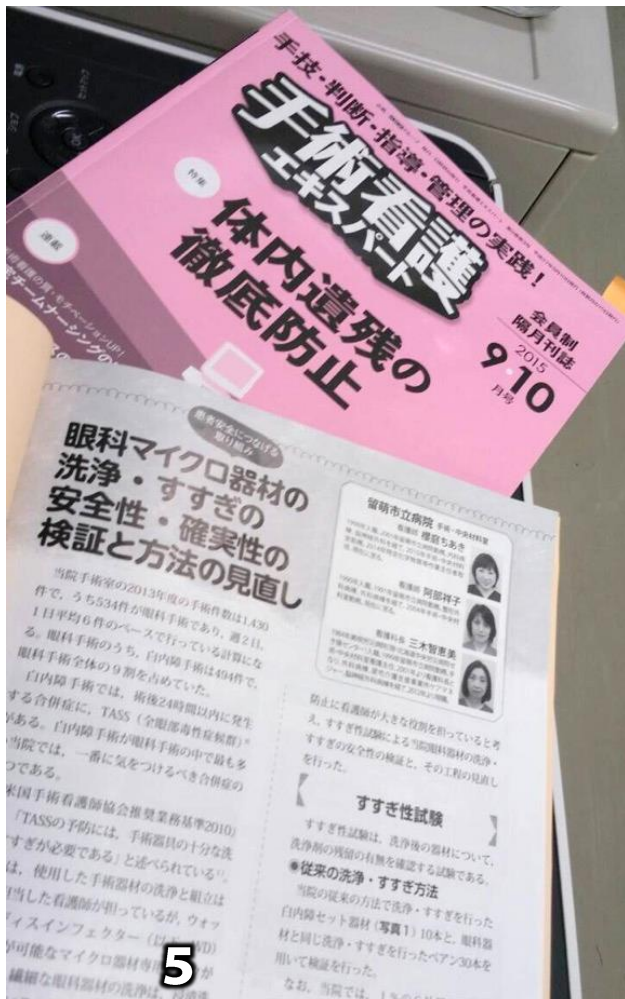
テレビドラマなどで医療現場が取り上げられ、手術の場面もよく目にしますね。もちろん緊迫した場面はありますし、常に緊張感があります。

テレビではかっこいいシーンがクローズアップされますが、実際は朝から掃除で始まり、手術が終わるたびに掃除、そして次の手術の準備…の繰り返しです。使い終わった手術器械を洗淨し、すぐ使えるように滅菌します。器械も種類がたくさんあり、はさみの切れ味確認や錆びがないかなど、器材のメンテナンスも行ったりと、実は手術が終わってからのの方が大変だったりするのです。しかし、どれも患者様が手術後の感染を起こさないための重要な任務なのです。

雑誌に掲載されたとお聞きしましたが

「眼科マイクロ器材の洗淨・すすぎの安全性・確実性の検証と方法の見直し」という題目で、当手術室のスタッフが一年かけて研究した成果を札幌で開催された研究会で発表しました。その内容が評価され、「手術看護エキスパート」という看護雑誌に掲載されました。手術器材の中でも特に眼科手術で使用する繊細なマイクロ器材の洗淨は大変難しく、また洗淨が不十分だと手術後に重大な合併症を起こしかねないため、このテーマは多施設からも興味深い内容だったとの評価を受けました。こ

うした研究活動も、日常業務の合間にコツコツと勉強して、まとめています。



何人のスタッフが勤務していますか？

手術室スタッフは、科長・主任の他、10名の看護師（うち男性看護師二名）の計12名の他、縁の下の力持ちである看護助手が6名働いています。看護助手は手術室だけでなく院内すべてで使用する器材の洗淨・滅菌業務を担う重要な役割を果たしています。皆、責任とやりがいを持って生き生きと仕事に取り組んでいます。

—— スタッフの特徴は？

私たちはキャップとマスクを付けていて表情がわかりにくいかもしれませんが、声掛けと笑顔のおもてなしの心でアメニティを大切に患者様と向き合い、ここで手術をしてよかったと思っただけのように日々頑張っています。

私が思う手術室スタッフのすばらしいところは、スタッフの『積極性』です。仕事はもちろんのこと、たとえば職場対抗のスポーツ大会やボーリング大会では全力で挑み何度も優勝を勝ち取っています。病院忘年会での余興では、多彩なアイディアでダンスや演劇を披露し観客を沸かせるなど、常に百パーセントの力を発揮しています。このパワーが、長時間の手術や緊急手術にも柔軟に対応できるチームワークの原動力だと感じています。

—— 最後に一言お願いします

特殊な環境で大変緊張もする仕事ですが、一緒に働く仲間を募集しています。手術室の仕事に興味のある方はご連絡お待ちしております。

手術室という閉鎖的な環境だが、イベントに積極的に参加するなど、アクティブなスタッフが多く仕事も同様パワーに充ち溢れる職場だった。

みき ちえみ

三木 智恵美

手術・中央材料室科長

1999年より留萌市立病院勤務

2012年より現職



薬局から
こんにちは

整腸剤って何？



整腸剤とは

人間の腸の中には非常に多くの細菌が住みついており、それらのなかには体に悪影響をおよぼす菌と体を守ってくれる菌の両方が存在しています。

これらはよく**悪玉菌**と**善玉菌**と呼ばれており、テレビの健康番組やヨーグルトの宣伝などで聞いたことのある方もいらっしゃると思います。善玉菌が優勢だと腸内環境

は正常な状態を保つことができますが、善玉菌が減って悪玉菌のほうが優勢になると腸内環境は悪化し、便秘や下痢などの不具合が生じてくる場合があります。便秘や下痢などの症状がみられるときに使用される薬の一つには、整腸剤があります。市販のおくすりだとビオフェルミンが有名ですが、病院で使用されている薬ではビオフェルミン以外にもラックビー、ミヤBM、エンテロノンR、レベニンなどいろいろな製品名の整腸剤があります。これらはおおまかに言うと善玉菌が入っているおくすりといったところです。善玉菌を補充することにより、腸内環境のバランスを正常化します。



当院で使用されている整腸剤



菌種と役割の違い

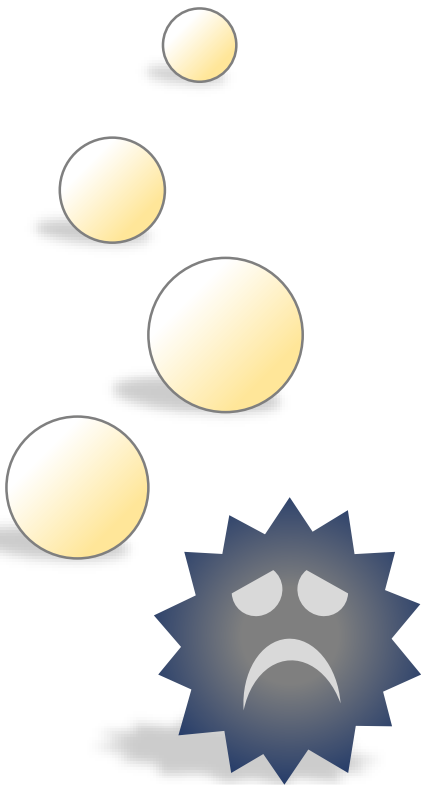
整腸剤の成分は乳酸菌などの生きている菌であり、これらの菌は主に乳酸・酢酸などの酸性物質を作ることによって腸内の有害な病原菌が増殖をすることを防いでくれます。

製剤によって配合される菌の種類は異なり、乳酸菌（ビフィズス菌、フェーカリス菌、カゼイ菌、アシドフィルス菌など）・糖化菌（とうかきん）・酪酸菌（らくさんきん）・耐性乳酸菌と様々です。糖化菌が乳酸菌の増殖を促進することや、乳酸菌と酪酸菌が互いの働きを助ける効果があることから、これら2種類または3種類の菌を混合している製剤もあります。

感染症で抗生物質を服用しているときは、病原菌だけでなく、体にとって有益な菌も減ってしまい、腸内環境が悪化して下痢が起こることがあります。整腸剤に含まれる乳酸菌なども抗生物質によって死滅して効果が期待できなくなるものが多いのですが、酪酸菌や

耐性乳酸菌は様々な抗生物質の存在下でも生き続けることができます。そのようなことから、抗生物質使用時には下痢などの症状を防ぐために酪酸菌または耐性乳酸菌を含む整腸剤を併用することが有効と考えられています。

整腸剤の中には牛乳由来の成分を含むものがあるので、一部の製品は牛乳アレルギーの患者さんには使ってはいけないとされています。もちろん牛乳アレルギーの患者さんでも安全に使用できるものもあるので、患者さんの体質に合わせて使い分けられています。





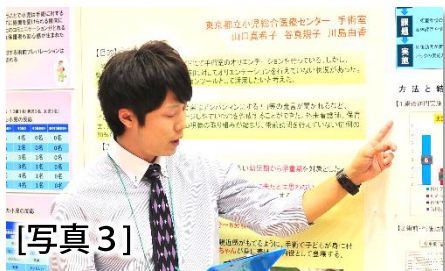
会場となった函館アリーナ

当院の研究を全国へ

全国自治体病院学会が平成27年10月8日
〜9日の2日間函館の花びしホテル、函館市民
会館、函館アリーナの3会場で開催され、全国
の自治体病院から研究の成果が集結した。

6、「三木智恵美、山中信和らは座長として発表の
進行を務め、質疑応答では発表者との熱いディス
カッションを繰り広げていた。
次回は来年10月に富山県での開催が決まってい
る。

当院からは4例出題した。【感染
症診療に関わる多職種への教育の効
果】を三住恵美看護師【写真1】、
【器材の再生処理の適正化に向けた
取り組み】を三木智恵美看護師【写
真2】、【術後訪問の定着に向けた取
り組みと成果】を渋谷尚(看護師)【写
真3】、【留萌市立病院における
TQM活動】では外来導線改善チーム
から山中信和(MSW)【写真4】、広報
誌作成委員会から加藤智之(診療放射
線技師)【写真5】がそれぞれ発表を
行った。
各々緊張した様子であったが、今
まで研究した成果を真剣に述べてい
た。また谷口論(臨床工学技士)【写真



道北6市市立病院野球大会

24年ぶり



やっ たぜ 優 勝 だ

平成27年8月8・9日
留萌市で第49回道北6市
市立病院野球大会が開催さ
れた。参加チームは当院を
はじめ、旭川市立病院、深
川市立病院、名寄市立病院、
士別市立病院、稚内市立病
院の6チームで争った。

試合前日の8日には選手交流会が開かれ、各病院やチームの紹介、試合の組合せ抽選会では当院野球部の司会進行により和やかな交流会となった。中でも試合の組合せ抽選会では高橋副院長が見事シード権を引き当て、当院は2回戦からの出場となった。

試合当日は天気にも恵まれ野球日和となり、会場には多くの方が応援や観戦に駆け付け、手術室からはチアガールとして衣装、踊りを用意し選手たちを鼓舞した。さらに観戦に来ていた高橋留萌市長も飛び入りでチアガールとして応援に参加し、踊る姿に会場はさらに盛り上がりを見せ選手たちもそれに応えるように活躍を見せた。

大会の結果は応援の甲斐もあり、1試合目は対士別市立病院3・15（5回コールド）、決勝となる2試合目は対名寄市立病院2・4で留萌市立病院が24年ぶりに優勝を果たした。

大会最優秀選手には前田悠佑投手（リハビリテーション科）、敢闘賞には大西啓之内野手（臨床検査科）が輝いた。他病院と交流し、共に汗を流した時間は今後の業務にも活きてくるものになることを願いつつさらなる活躍を期待したい。

留萌市立病院野球部優勝おめでとう！

POST SCRIPT

広報誌も4号目となりました。

今年は本号で最終となります。また来年も3か月に一冊のペースで出版していきたいと考えています。

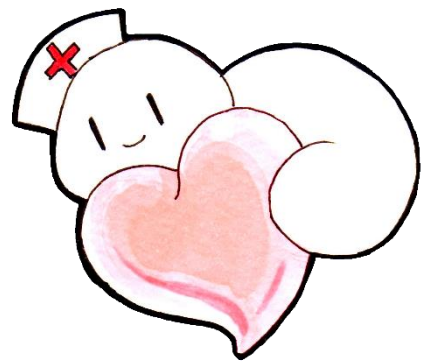
当院ホームページでもこの「いもる、」を閲覧できるようになりましたので、バックナンバーなど是非ご覧ください。

有志が作成した「いもるちゃん」(本ページ右)をイメージキャラクターとして採用しました。次号より登場する機会を増やして行く予定です。「いも、虫をベースにハートを優しく包み込む曲線が「る、」を模っています。

寒い季節風邪などひかないよう気を付けて冬を乗り切りましょう！



留萌市立病院のホームページから
広報誌「いもる、」を閲覧できるようになりました。



イメージキャラクター「いもるちゃん」

留萌市立病院

るもいしりつびょういん

〒077-8511

北海道留萌市東雲町2丁目16番地1

電話: 0164-49-1011 (代表) / ファクス: 0164-43-0337

ホームページ: <http://rumoi-hp.jp>

広報誌作成委員会